

アジアで活躍する多分野の専門家を日本に招く「アジア・リーダーシップ・フェロープログラム」(国際交流基金、国際文化会館主催)の公開プログラムが27日、福岡市内で開かれた。

「アジア・——」は1996年に始まり、毎年秋にアジア各国の大学教授や研究者、ジャーナリストなどが日本に集まって課題や展

## アジアのリーダー 40人福岡で討論

望について意見を交わす。昨年までに13か国54人が参加した。

公開プログラムは10年を記念、これまでの参加者が再度結集する特別企画。12か国から約40人が参加した。西南女学院大学人文学部の菅英輝教授が「東アジアの戦争と記憶」をテーマに発表。戦後のアジア各国の国家形成と歴史をめぐる

### 10年記念 特別プログラム

問題について「ナショナルイズムのこだわりを捨て、市民レベルの交流や活動をすることが歴史問題を克服する糧になる」と話した。

フィリピンの芸術批評家マリアン・パストール・ロセスさんも博物館の位置づけについて発表した。29日まで。最終日は韓国の釜山市に会場を移して行われる。